

ウクライナの子支援を

東海市で川口さん 日福大生に向け講演

ロシアの軍事侵攻を受けるウクライナの出身で、日本ウクライナ文化協会(名古屋市)の理事長を務める川口リュドミラさん(四二)の講演が二十二日、東海市芸術劇場であり、日本福祉大学国際福祉開発学部(学生約百五十人)が耳を傾けた。

一年生と二年生のゼミ活動の一環として開いた。川口さんは、人口や面積などの基本的な情報や歴史を解説した上で、現在のウクライナ(ウクライナ)の状況を説明。「明後日で戦争が始まってから四

カ月になるが、最近ニュースも少なくなってきた」と涙ながらに語り、愛知県と岐阜県の人口を合わせた約一千万人が国内外に避難したと述べ、「愛知県と岐阜県の人がいなくなったら、皆さんどう思いますか」と問いかけた。「体の傷は治るけど、心の傷は治らない。避難してきた子どもたちは、平和な日本でも大変。文化協会は避難してきた人を助けようとしています」と話した。

学生からは「日本人がで

きることは何か」という質問があり、川口さんは「七月三十一日に名古屋市中区でイベントを開く。寄付金はウクライナの子どものために贈ります」と協力を求めた。



日本福祉大の学生を前に講演する川口さん(左奥)＝東海市の市芸術劇場で